

昭和から平成・・・そしてこれから

教育・平成2年卒・高松市立木太北部小学校 池田 茂樹

私が香川大学に在籍している間に、時代は昭和から平成へと移り変わりました。

今まで、そのことをあまり意識したことはなかったのですが、間もなく新しい元号になることが決まってから、よくあの頃を振り返るようになりました。

学生になったころは、いわゆる「バブル期」の始まりだったかと思います。世の中は上り調子の好景気で、街じゅう人々の活気であふれていました。まだ何も社会的な貢献などできていないはずの学生までもが、風潮に流されてか浮かれた行動をとっていたものです。「♪24時間戦えますか・・・♪」という栄養ドリンクのCMメロディーが思い出されます。

そんな私でしたが、やはり教職を目指して教育学部に進学しましたので、未来に活躍する子どもたちを育てることのできる教師になることができるよう、4年間コツコツ勉強したり、仲間たちと教育談義をしたりしながら、何とか無事に卒業、就職へと歩み出すことができました。今の自分が、曲がりなりにも教職を続けることができているのは当時から多くの出会いに支えられているからだと深く感謝しています。

私が学校現場で働き始めてすぐ、「バブル崩壊」の時期を迎えました。しかしながら教育現場では、「ゆとり教育」が展開している真っ最中でした。そして今や、「脱ゆとり」といわれる流れとなっています。自分が子どものころには、後に「つめこみ」と評された教育を受けてきましたから、まさに学んできた教育と、指導してきた教育が、いつも大きな転換期を迎えていたわけです。

やがてくる新時代に、私たちはどのような教育を展開していくことになるのでしょうか。新学習指導要領によって国の方針は示されているので、当然のことながら学校や各研究会等では具体的な実践のカリキュラムをマネジメントしています。平成の時代が約30年で幕を閉じようとしています。30年という節目を与えていただいたことを契機に、私たちはさらに30年先の近未来を真剣に考えていく必要があると感じています。目の前の子どもたちが40歳、50歳になった時に、だれもが頼もしく生きることができるよう、その基礎を培っていくことが私たちの責任です。

松楠会の偉大なる諸先輩方にご指導を賜りながら、素晴らしい同期の仲間たちと手を取り合いながら、そして若き先生方とともに汗を流しながら、未来への展望を切り拓く教育活動を進めることができるよう尽力したいと思います。